

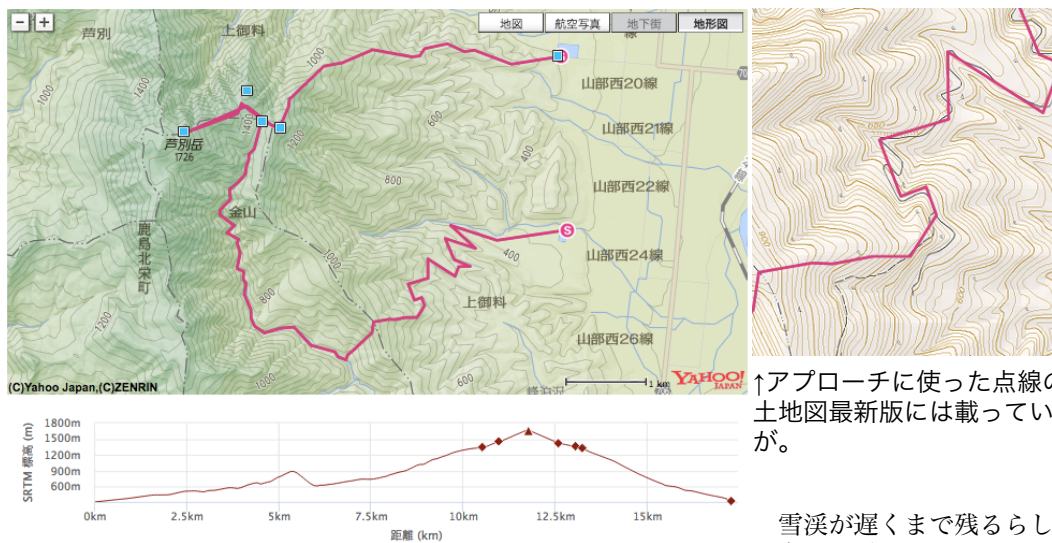
ポントナシベツ川本流→芦別岳→新道 2017/8/5-6

L高橋岳、羽月(北大山の会)

【Time record】

8/5 (10:30)林道ゲート(14:30-14:50)ポントナシベツ本流出合(16:00)Co750=C1

8/6(04:20)Co750(06:30-8:30)Co1050大滝(10:30)新道(11:50)芦別岳(14:00)新道登山口



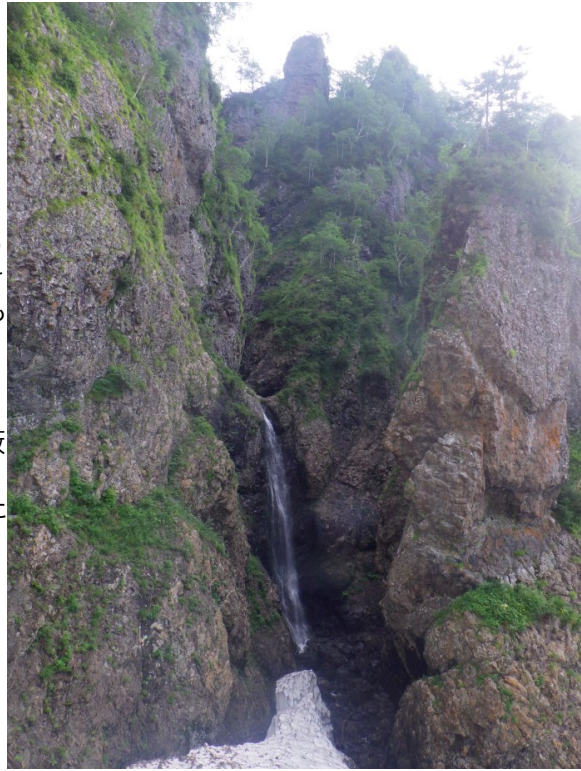
↑アプローチに使った点線の道。国土地図最新版には載っているのだが。

雪溪が遅くまで残るらしい記録の多い、ポントナシベツ沢に行ってみた。今回のパートナーは昨年北大カムチャッカ遠征隊の隊長を務めた羽月君。タスマニアで沢登りもしている。友人宅での居候生活が終焉を迎え、平成とは思えないぼろ家に住む絶滅危惧種である(主食はボストンベイクのパン耳)。ポントナシベツ沢は金山から10km程の林道歩きと長い河原歩きが下流部にあるのだが、新道下山すると、車の回収が非常に面倒くさい。地形図を開いてみると、山部側の峰泊沢から林道が支尾根に延びている。更に電子地図には作業道らしき道の記載があり、使用出来るのでは、... と思い行ってみた。

8/5：林道入口には鹿止めのゲートがある。晴天の下、立派な林道を歩く。地図上の点線始点の辺りにすぐ着くが、それらしきものは見当たらない・・・もしやこれ？と薄い踏み跡を辿ってみると、50m程で踏み跡は消失し深い藪に還っていた！やっぱり。強烈な根曲がり笹とアブに悪態をつき、飲み水も尽き、やっと稜線に出て、ポントナシベツ本流へ向かって沢型を降りる。本流で体を净め、のんびりテンバへ向かう。下流から遡行すればよかった・・・雪溪はやはり例年より少ないようで、co700までは残骸が残る程度。Co720付近の雪溪は兩岸捲くのも悪く、下をくぐった。右岸からの大滝が出合うCo750でC1。相棒は研究でグリーンランドのカナックに1ヶ月程滞在し、帰国直後なので現代イヌイットの面白い話を沢山聞いた。何でも異国人は女性からの誘惑がすごいらしい。あとキビヤック(海鳥をアザラシに詰め込み発酵させた伝統食)は結構美味らしい。



8/6：テンバからは小滝、釜持ち滝が適度に続く。Co840付近や他にも結構テンバはある。時期が早いとおそらく雪渓に埋まっているのだろう。大雪渓に出ると、ツバメ飛び交う大岩壁に囲まれた Co1050の大滝に出会う。この大滝は見事であった。大滝は右岸2p（40m+40m）ロープ出して大高捲き。Bush帯テラスまで登り、落ち口くらいの高度からCo1100辺りまで植生をつないで抜ける。懸垂なし。以後の滝は概ね直登できるものが多く快適な遡行だった。3段釜持ち滝がありこれは捲いた。源頭は天国の様な所でしっかり獣道がついており、当初はピークに近いCo1280左股をつめる予定であったがもう藪は漕ぎたくないとの一致で熊の沼コルに向かう右股をつめる。しかし何処かで道を誤ったか、ひどい笹トンネルをホフク前進、四つん這いで獣の如く漕いで新道に出る。空身で芦別アタックし下山した。



岩壁をえぐり抜いた様な
Co1050大滝

背後にポントナシベツ岳(南喜岳)直登沢。